

協議(5)

平成 20 年度
事業計画、歳入歳出予算について

資料目次

1 .	田野畑村の公共交通の現状と課題 ~昨年度の取り組み成果~	1
1-1	公共交通の現状	1
1-2	公共交通の課題と検討方針	3
1-3	利用者のニーズに対応した交通システム案	4
2 .	調査計画	5
2-1	調査・検討の目的と方法	5
2-2	調査・検討フロー図	6
2-3	調査・検討体制	11
3 .	検討スケジュール	12
4	歳入歳出予算	13

1. 田野畑村の公共交通の現状と課題 ~ 昨年度の取り組み成果 ~

1-1 公共交通の現状

- ・ 田野畑村の公共交通としては、村民バスが村診療所を中心として村内を広く網羅するように走り、村内移動および岩泉町や普代村方面への村外移動を担っているほか、三陸鉄道の駅が2駅あり、久慈や宮古方面への村外移動を担っている。
- ・ 村内の医療機関としては田野畑村診療所（医師数1名）しかないことから、村民バスは村全域から診療所までの足としての役割を果たしている。
- ・ 村内には高校が、岩泉高校の分校として田野畑校が1校あるが、生徒数は少なく、岩泉高校他近隣市町村の高校への通学手段としても、村民バスと三陸鉄道が利用されている。

（村民バス）

- ・ 村民バスは平成4年にJRバスが撤退したのを契機として運行を開始し（旧80条バス）現在は5路線36系統を7台の車両で運行している。（表1）
- ・ 利用者数は、平成4年の運行開始後減少を続けている。（図1）
- ・ 村民バスの運行にかかる費用として、村が約4千万円/年を負担して維持している。
- ・ 利用者は村内に広く分散しており、診療所や駅を中心に移動を行っている。（図2）

表1 田野畑村の公共交通体系の主な経過

年月	内容	備考
~ 昭和59年	<p>< 民間事業者による路線バスの運行 ></p> <p>国鉄バス運行（幹線のみ） 村内民間事業者が一部地域で路線バス運行 患者輸送車による診療所無料送迎（隔日運行）</p>	昭和59年4月 三陸鉄道開業
昭和61年	<p>JRバスの一部合理化（一部廃止） 民間業者に廃止代替バス運行を委託（21条バス）</p>	
平成4年7月	<p>< 自主運行バス事業の開始 ></p> <p>JRバスの全面撤退 直営運行による「村民バス」の運行開始（80条バス） 診療所無料送迎の廃止</p>	5路線20系統 車両6台
平成12年	<p>村民バス運営改善検討懇話会の設置 路線一元化による民間委託を提言</p>	
平成14年	<p>村民バスとして一元化し、村内事業者へ運行委託（80条バス）</p>	

第1回田野畑村地域公共交通活性化協議会

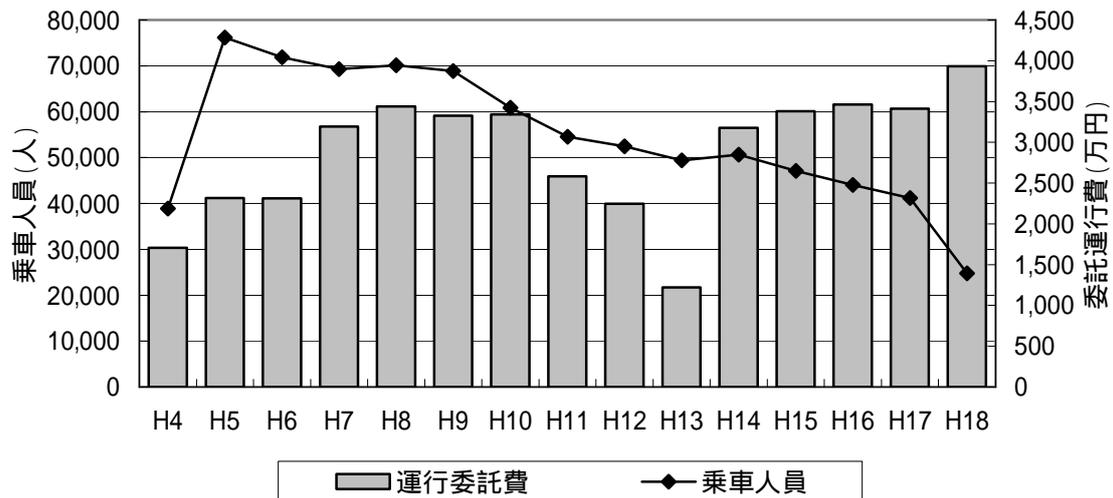


図1 村民バスの乗車人員と運行委託費の推移

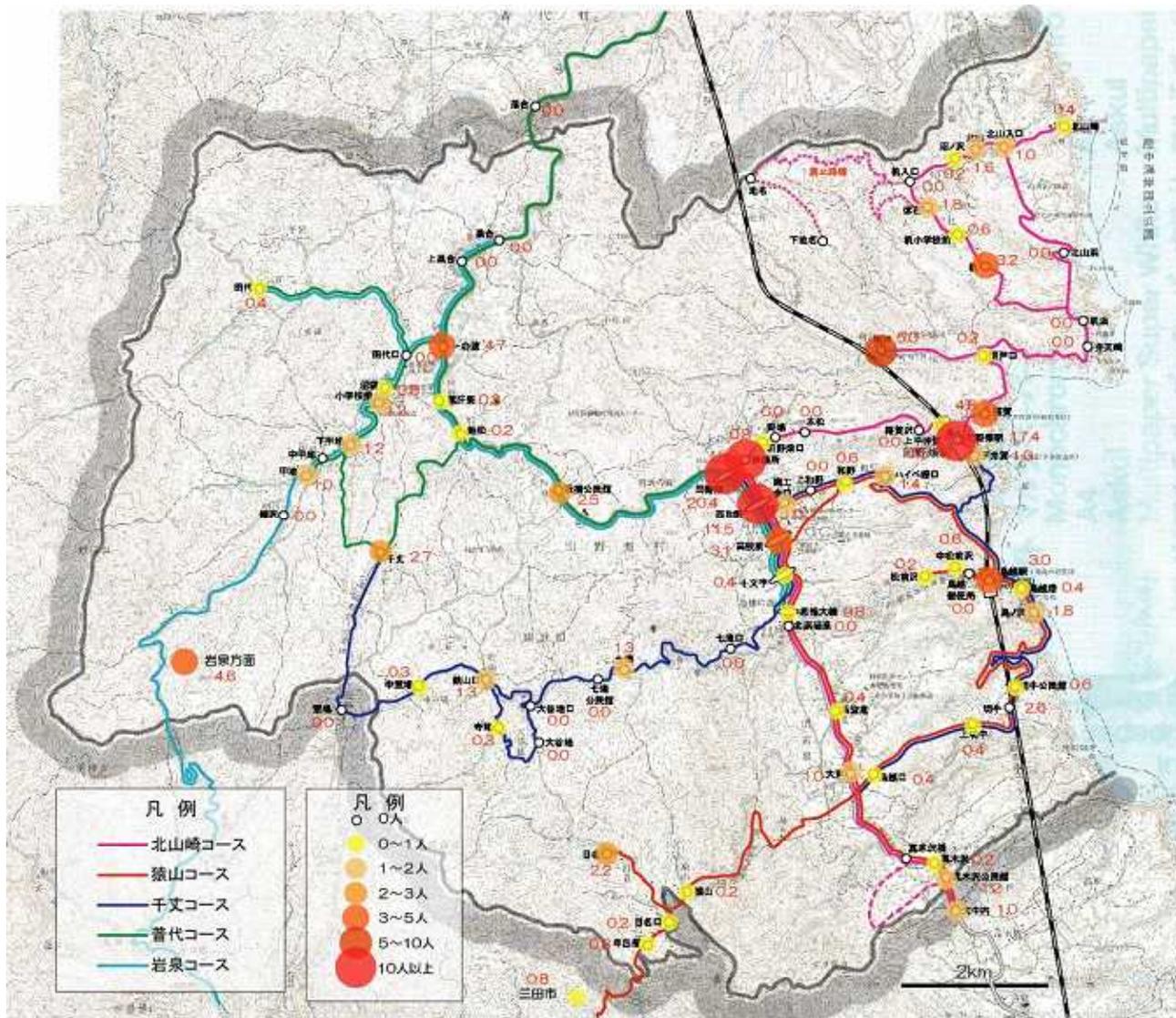
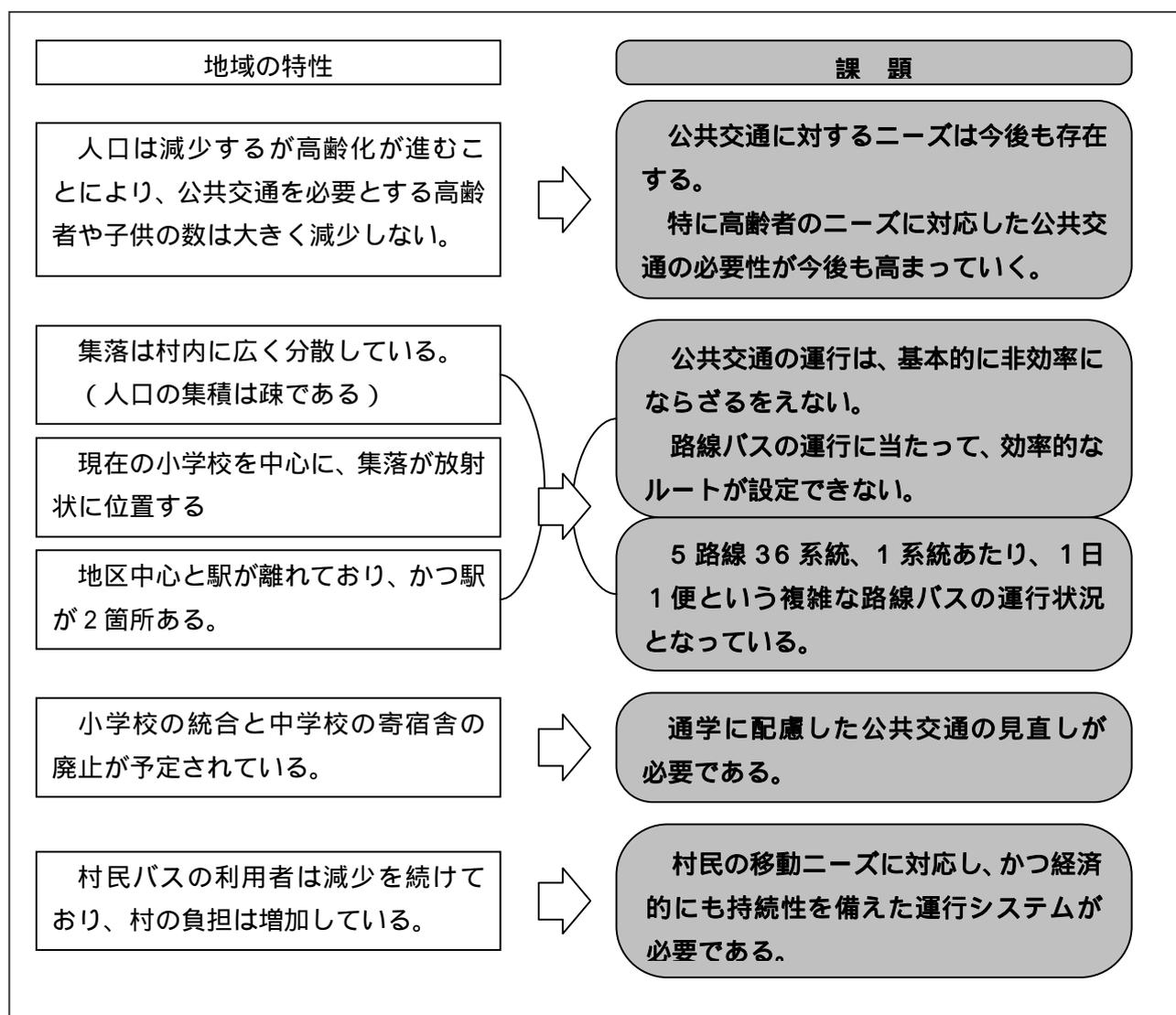


図2 高齢者と一般の1日平均乗降人員(延べ人員)

1-2 公共交通の課題と検討方針

田野畑村の地域特性と、公共交通をめぐる課題は以下のように整理できる。



< 基本的な検討方針 >

- ・ バス利用者が減少している現在、路線バスに適さない地域特性からも、定時定路線型の路線バスによる公共交通ニーズへの対応は限界にきている。
- ・ 利用者のニーズに対応した交通システムを導入することが望ましい。

第1回田野畑村地域公共交通活性化協議会

1-3 利用者のニーズに対応した交通システム案

利用者の公共交通ニーズと、ニーズに適した交通システムとして、以下の組み合わせ（総合公共交通体系）が提案される。

表 2 公共交通のニーズと運行方法案（総合公共交通体系）

運行時間	対応ニーズ	主な行き先	適する運行方法例
6～7時	村外へ通院・通学 （三鉄乗換え）	田野畑駅、島越駅	路線バス
7～8時	村外へ通院・通学	田野畑高校、岩泉高校	路線バス
7～8時	小中学生の登校	田野畑小学校、 田野畑中学校	スクールバス
8～15時	高齢者や一般の 通院や買い物	田野畑診療所、田野畑駅、 島越駅、岩泉駅、三田市	デマンド型交通 （乗合タクシー等）
	観光客	北山崎、田野畑駅、鵜の巣断崖	路線バス
15～17時	小学生の帰宅 （一般も混乗）		スクールバス （一般混乗）
17～18時	小中高学生帰宅 （一般も混乗）		スクールバス （一般混乗）
19時～	村外からの帰宅		路線バス

2. 調査計画

2-1 調査・検討の目的と方法

調査・検討は、ひとつは住民アンケート調査や関係機関へのヒアリング調査等により村民の公共交通の現状とニーズの把握、ふたつ目は関係機関での協議による総合的な交通体系の連携・協力体制の検討を行う。ニーズの把握を受けて、運営・運行方法の適性を分析するとともに、需要の予測を行う。連携協力体制のあり方を検討し、ネットワークとしての村民の移動を確保するとともに、継続的な運営・運行を維持する利用促進を含めた運営協議体制の確立を目指す。

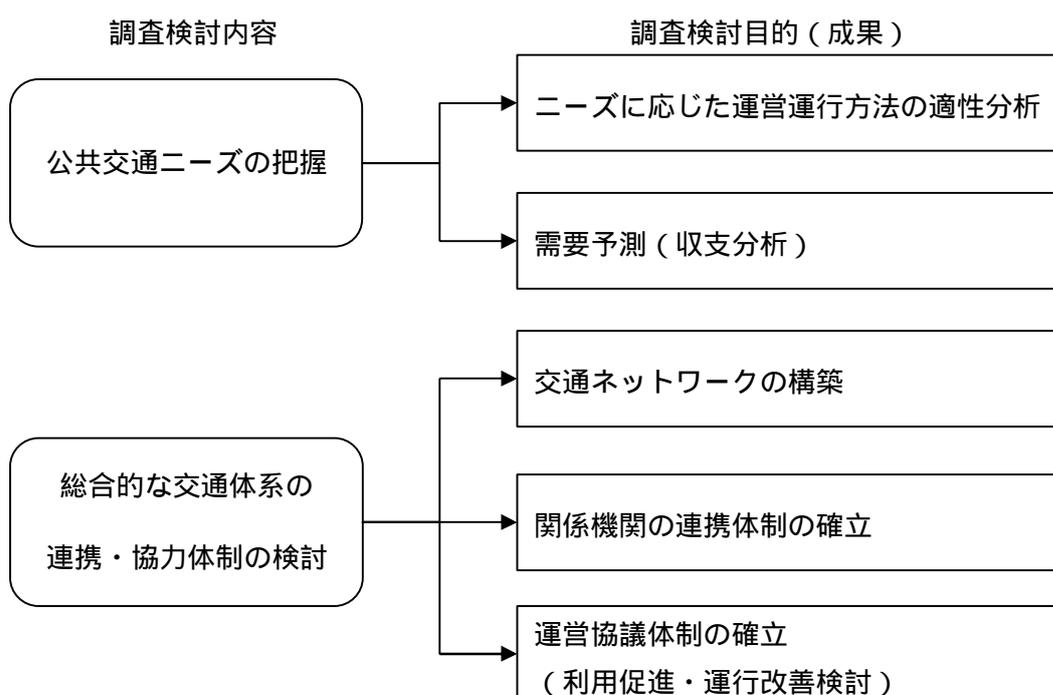
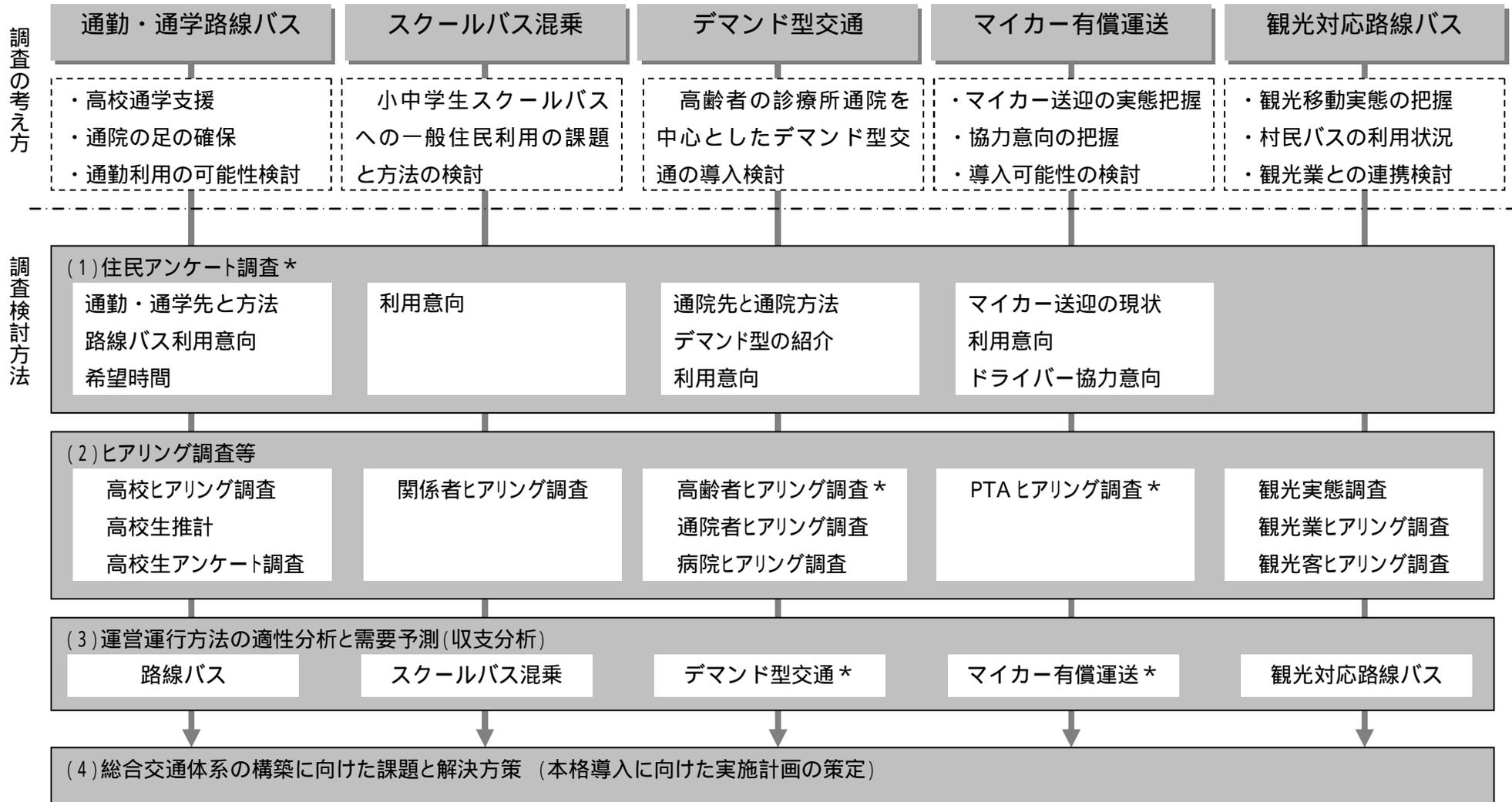


図 3 調査検討の目的と方法

2-2 調査・検討フロー図



*がついている調査検討項目についてはさんりく基金を活用して実施する。その他については、活性化事業の適用を申請予定。

(調査概要)

(1) 住民アンケート調査

目的	高校生以上の住民を対象に、質問紙によるアンケート調査を実施し、デマンド型交通と過疎地有償運送の導入可能性を把握すると共に、サービス内容に関する質問を行い、サービス水準を決定する指標を構築する。
対象	全世帯(1400世帯) 15歳以上の村民(_____人)
方法	質問紙によるアンケート調査、自治区長を通じた配布回収
実施期間	7月中旬配布、下旬回収、(8月入力・集計)
調査項目 (案)	<p>1) 世帯人員、属性</p> <p>2) 現在の外出状況(外出目的と外出先と外出方法)</p> <p> 通勤状況: 通勤先</p> <p> 通学状況: 通学先と通学方法(高校生)</p> <p> 通院状況: 通院先、頻度、方法</p> <p> 買い物状況: 買い物先、頻度、方法</p> <p>3) 通勤・通学路線バスの利用意向と希望時間、希望ルート</p> <p>3) スクールバスの混乗利用意向、条件</p> <p>4) デマンド型交通の利用意向、</p> <p>5) マイカー有償運送について</p> <p> ・家族送迎の現状、家族外送迎の現状</p> <p> ・ボランティア・ドライバーとしての参加意思</p> <p>6) その他</p>

(2) ヒアリング調査等

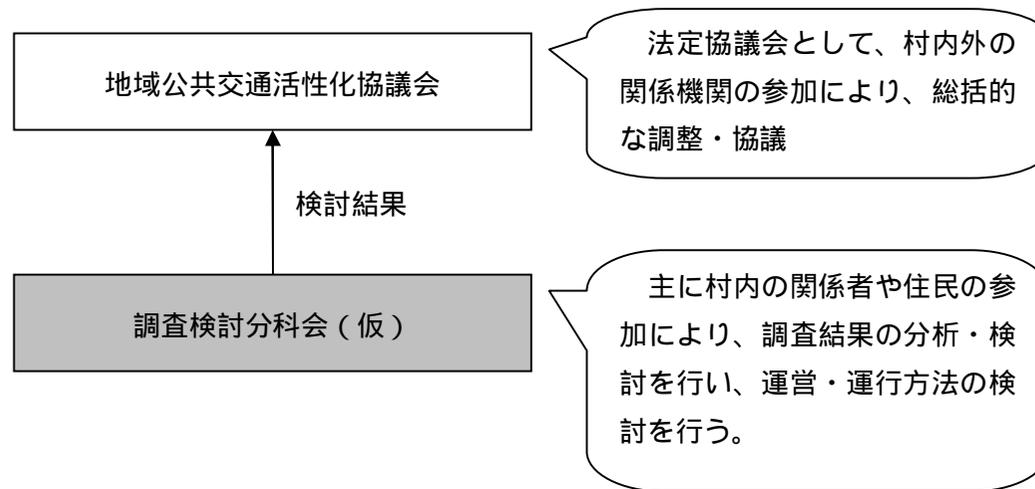
調査	対象	調査方法、質問項目	備考
高校ヒアリング	田野畑校 岩泉高校	<p>【方法】高校教諭へのヒアリング調査（各1回計2回）</p> <p>【質問項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校時間（授業開始時間） ・下校時間（需要終了時間） ・部活動後の下校時刻と方法 ・登下校の状況 ・その他 	
高校生人数の推計	-	<p>【方法】高校別進学率と人口から、平成22年以降の高校別通学人数の推計を行う。</p>	進学先別の中学生人数データの収集
高校生アンケート	村内の高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・登校方法 ・下校方法 ・季節変化 ・時間のニーズ 	必要に応じて実施
関係者ヒアリング	教育委員会 田野畑中学校 田野畑小学校	<p>【方法】教育委員会および田野畑中学校に対して、調査員が訪ねてヒアリング調査を実施する。（2～3機関想定）</p> <p>【質問項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスの運行予定 ・授業時間 ・登校や下校の状況 ・スクールバスへの一般混乗の可能性 ・その他 	

<p>高齢者ヒアリング</p>	<p>65歳以上の村民</p>	<p>【方法】地区別に65歳以上の村民に対してグループヒアリング調査を実施する。(6地区×8名程度=48名)</p> <p>【質問項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の外出状況(目的別の行き先、方法、頻度) ・送迎の現状 ・外出に関して困っていること ・デマンド型交通の利用意向 ・その他 	<p>1回×調査員2名×村民4名=村民8名 計6回程度</p>
<p>通院者ヒアリング</p>	<p>田野畑診療所 通院者</p>	<p>【方法】田野畑診療所において、通院者に対して調査員が対面ヒアリング調査を実施する。(2~3日間程度)</p> <p>【質問項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通院の方法と頻度 ・通院に際して困っていること ・デマンド型交通の利用意向 ・その他 	<p>田野畑診療所と協議の上、実施する</p>
<p>病院ヒアリング</p>	<p>田野畑診療所 歯科医院(2)</p>	<p>【方法】診療所および村内の医療機関に対して、調査員が訪ねてヒアリング調査を実施する。(3施設)</p> <p>【質問項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来人数 ・外来診療時間 ・公共交通との連携の可能性 ・その他 	<p>状況に応じてアンケート調査として実施する。</p>

<p>PTAヒアリング</p>	<p>小中学生の 保護者</p>	<p>【方法】地区別に65歳以上の村民に対してグループヒアリング調査を実施する。(6地区×4名程度=24名) 【質問項目】 ・現在の通学状況、マイカーの送迎状況 ・グループ送迎の可能性 ・その他</p>	<p>1回×調査員1名×村民4名=村民4名 計6回程度</p>
<p>観光実態調査</p>	<p>村</p>	<p>【方法】観光に関する資料の収集整理 【収集資料】 ・観光地、観光施設の概要 ・観光入込み数 ・その他</p>	
<p>観光業者ヒアリング</p>	<p>村、観光事業者</p>	<p>【方法】村および村内の観光事業者に対して、調査員が訪ねてヒアリング調査を実施する。(3~4施設) 【質問項目】 ・季節別の入込み数 ・来訪者の居住地、来訪手段 ・公共交通のニーズ ・その他</p>	<p>羅賀荘、体験村他</p>
<p>観光客ヒアリング</p>	<p>観光客</p>	<p>【方法】村内の主要観光地において、観光客に対して調査員が対面ヒアリング調査を実施する。(2~3日間程度) 【質問項目】 ・居住地 ・移動手段 ・公共交通のニーズ ・その他</p>	<p>北山崎</p>

2-3 調査・検討体制

検討は、活性化協議会の分科会を設置し、調査方法の精査や結果の分析、運営・運行方法の協議等を行う。



地域公共交通活性化協議会メンバー	調査検討分科会（仮）メンバー	
田野畑村、タクシー事業者、三陸鉄道株式会社、道路管理者 田野畑村教育委員会、田野畑村保健医療センター 振興会代表、東北運輸局岩手運輸支局、宮古地方振興局 バス協会、老人クラブ、婦人連合 運輸産業労働組合協議会	生活交通分科会（仮）	観光と公共交通（仮）
	振興会（6）、老人クラブ（1）、PTA（1） タクシー事業者（3）、三陸鉄道（1） 村（2）、教育委員会（1）、保健医療センター（1） 計16名程度	村（3）、タクシー事業者（2） 三陸鉄道（1） 観光事業者（3～4） 計10名程度
第1回 6月2日 調査計画について 第2回 1月頃 調査結果、実施計画について	第1回 7月頃 住民アンケート調査について 第2回 9月頃 住民アンケート調査結果について 住民ニーズ、運営運行方法について 第3回 11月頃 実施計画について	第1回 観光事業の現状 第2回 観光実態調査結果 運営運行方法 第3回 実施計画について

3. 検討スケジュール

年度	月	協議会・分科会	調査	備考
H20	6月	第1回活性化協議会(立ち上げ、調査計画の説明)	アンケート調査票の作成	活性化事業への申請
	7月	第1回分科会(上旬) ・住民アンケート調査、ヒアリングについて	アンケート調査の実施(中旬に配布、下旬に回収)	
	8月		アンケート調査票の入力分析 ヒアリング調査の実施	
	9月	第2回分科会 ・アンケート結果 ・ヒアリング調査結果	補足調査	
	10月		需要予測分析(収支分析) 運営方法の検討に向けた関係者ヒアリング、協議	
	11月	第3回分科会 ・需要予測分析(収支分析)結果 ・運営・運行方法案について	運営方法案の決定	
	12月		計画素案づくり	
	1月	第2回活性化協議会 ・調査検討結果 ・実施計画素案(連携計画)の策定		
	2月	実施計画案(連携計画)の公表		パブリックコメントの実施
	3月	実施計画(連携計画)の策定		計画案の認定申請
H21		デマンドの実験、車両購入等		実施計画に基づく事業1年目
H22		新交通体系への本格移行		実施計画に基づく事業2年目
H23		運行改善		実施計画に基づく事業3年目